

第5学年B組 外国語科学習指導案

授 業 者 山崎 麻絵 (HRT)
マーク・ジョーンズ (ALT)
研究協力者 佐々木 雅子

1 単元名 紹介します！ This is my friend.

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

第4学年「Let's go to the world!— What do you want?—」では、複数の単元を行き来しながら既習事項を使いこなし、英語で活動する世界にのめり込んでいた。スムーズに活動を進められる状況とうまく事が進まない状況とを行ったり来たりしながら、その場で生まれた疑問や驚き、困難な状況を解決するために、新しいことを習得する必要感をもって学びを深めていた。

また、第5学年「Check Your Steps 1」では、名前や誕生日、好きなことやできることを相手と伝え合うやり取りに積極的に取り組んだ。それまでに学習した表現を意識しながら、自分の使える表現を使って伝え合いたいという意欲の高まりを感じた。

その一方で、自分の言葉を伝えることだけに満足し、相手が話す内容から新しい発見をしようと傾聴したり、もっと相手のことを知ろうと新たな質問をしたりしながら聞くことができず、自分の表現を振り返ったり、学んだことを次の活動に取り入れたりするまでに至らない子どもも見られた。そのため、相手のことについてよく知ること意識しながら、知っている表現を駆使してやり取りをし続けようとする姿への変容を期待する。

より相手に寄り添ったやり取りができ、英語を用いて誰とでも心の通ったコミュニケーションができる喜びを感じられるようにしたい。

(2) 単元について

本単元では、よく知っている友達との英語でのやり取りから一歩前に踏み出して、本学の海外留学生とのやり取りを通して彼らと仲良くなり、彼らを自分の友達として学級の友達に紹介することをゴールとする。その活動に向けて、相手のことを聞き出すには何を質問したらよいのか、相手に自分のことを知ってもらうには何を伝えたらよいのかを考えることで、様々に試行錯誤しながら伝え合う姿が見られるであろう。

また、普段の外国語の活動では、相手に伝わるようにゆっくり話したり、日本語に置き換えたりしてある程度分かりやすく伝え合うことができて、今回の活動は、なじみのない留学生との交流であるため、あまり聞き慣れない表現も飛び交うことが考えられる。そのような状況の中では、いつも以上に傾聴の姿勢が必要になるが、もがき苦しみながらコミュニケーションが取れた時の喜びは、ひとしおである。

どのような表現を使えばよいのか考えながら積み重ねる相手とのやり取りによって、自信をもって使える表現が増えていき、相手に合わせてその場で伝え合う力を高めることにつながると期待できる。

(3) 指導について

本単元において高めたいのは、自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、相手のことをよく知るためにその場で伝え合うという資質・能力である。

授業デザインの取組一つ目との関連から、相手意識を高めるために、単元の初めには、ある人物が誰なのか当てる Who am I? クイズをする。クイズの回答者や出題者になって、その人物がどんな人なのか考えることを通して、相手のことをより深く知るためには、相手の得意なことを質問したり、答えに応じてさらに質問を考えたりするなど、相手とのその場のやり取りが大切であることに気付くことができるようにする。

授業デザインの取組二つ目との関連から、自分が知りたい内容を基に相手とやり取りをすることを通して、その場で質問をしたり答えたりしながら表現に慣れ親しむ活動を積み重ねる。例えば、相手に自分のことを伝えたり、他の誰かに相手のことを紹介するのに必要な情報を相手から聞き出したりするようなやり取りを提示する。さらに中間評価の場では、相手とのやり取りにおける表現の工夫を共有することで、表現の幅を広げることができるようにする。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 簡単な語句や基本的な表現を聞き取ったり、自分のことや身近な事柄について伝え合ったりすることができる。 〈2・12〉
- (2) 自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、その場で伝え合うことができる。 〈14・20〉
- (3) 相手のことをよく知るために、相手とのよりよいコミュニケーションを意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。 〈イ・オ〉

4 単元の構想（総時数 7 時間）

「Let's go to the world!—What do you want?—」（4 年生）・「Check Your Steps 1」（5 年生）
自分や相手のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) ある人物を紹介するやり取りから、具体的な情報を聞き取る。 ・どんなことを紹介しているのかな。 ・英語では何と言うのだろう。	・相手について紹介したいという目的意識がもてるよう、HRTとALTが質問したり紹介したりするやり取りを提示する。	・好きなものや得意なことについて、尋ねたり答えたりする語句や表現を聞き取っている。 〈2〉
【単元のゴール】 友達のことを紹介しよう。～英語で友達になれるかな?～			
2 ・ 3	(2) クラスの友達や身近な人物について紹介し合う。 ・He / She can ～. ・What ～ do you like? ・I can ～. How about you?	・相手とのあたたかな関わりがもてるように、相手の気持ちを考えてやり取りをする表現を提示する。	・相手のことについて尋ねたり、自分のことを伝えたりする語句や表現に慣れ親しんでいる。 〈2、12〉
4	(3) 留学生の知りたい情報を整理し、紹介したい内容を考える。 ・何を紹介しようかな。 ・自分のことも知ってもらいたいな。 ・相手の気持ちを考えることも大切。	・やり取りへの意欲が高まるよう、留学生の出身国について調べ、質問内容を考える時間を設定する。 ・留学生や自分の情報を整理するシートを準備する。	・よりよいコミュニケーションの仕方を意識して、相手のことについて尋ねたり、自分のことを伝えたりする語句や表現に慣れ親しんでいる。 〈2、12、イ〉
5 ・ 6 本 時	(4) 留学生にインタビューをして、紹介し合う。 ・Where are you from? ・I ～. How about you? ・名前のスペルを聞いてみたい。 ・英語ではなんと言うのだろう。 ・もっと詳しく聞いてみたい。 ・友達になることができたかな。	・相手とのやり取りを楽しみながらインタビューできるように、相手をよく知るために必要な表現を示したり、追加で質問を考えられるシートを準備したりする。	・自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、その場で質問したり伝えたりしている。 〈14、オ〉
7	(5) 親しくなった留学生についてまとめたものを紹介し、本単元の学びを振り返る。 ・相手と英語でやり取りができた。 ・相手が変わっても、友達になれそう。	・相手とのやり取りを通して、「相手をよく知ることを意識してやり取りができた」「使える表現が増えた」などの視点を確認し、自己の学びを振り返ることができるようにする。	・インタビューした内容を生かして、留学生のことを紹介している。 〈20、オ〉

◎本単元で育む主な資質・能力

自分や相手のこと及び日常生活に関する事柄について、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、相手のことをよく知るためにその場で伝え合う。(14、オ)

「Unit 8 Who is your hero?」

お互いのことをよく知るために、憧れの人の職業や得意なことなどについて、相手に質問したり紹介したりする。

5 本時の実際（6／7）

- (1) ねらい 慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の表現に着目し、相手のことをよく知り仲良くなるためのやり取りを通して、その場で質問したり伝えたりすることができる。
(14、オ)

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
2分	① 前時の学習を振り返り、本時のゴールを確認する。	・活動の見通しがもてるよう、前時までの活動を振り返る。
	Today's Goal 留学生と友達になろう。	
5分	② 留学生の簡単な自己紹介を聞く。 ・優しい人だな。 ・どんなことを答えてくれるかな。 ・話し掛けるのが少し怖い。	・相手とのやり取りに意欲的に取り組めるよう、易しい話題や人物クイズなどで場を和ませ温かい雰囲気をつくる。
25分	③ 留学生と友達になるために、グループでインタビューをする。 〈予想される子どもの反応〉 【話題から考えている】 ・自分から先に自己紹介したい。 ・好きな物の理由も聞こう。 ▲何から話せばよいか分からない。 【英語表現から考えている】 ・What ～ do you like ?がよいのかな。 それとも、Do you like ～?かな。 ・How about you?で尋ねてみよう。 ▲得意なことの尋ね方が分からない。 【伝え方から考えている】 ・イラストに描いて、聞いたらどうかな。 ・相手の答えにリアクションしてみよう。 ▲英語で何と言えばよいか分からない。	○相手とのやり取りを楽しみながらインタビューできるように、相手をよく知るために必要な表現を示したり、追加で質問を考えられるシートを準備したりする。 ・留学生とじっくり話をしながら多様な表現に触れることで、よりよいやり取りに気付くことができるようにする。 ・困った時には、自分で調べたり、誰かに尋ねたり、グループで助け合ったりすることができるようにすることで、安心して活動に臨めるようにする。 ○中間評価の場を設定して、より相手を意識したやり取りにつながる表現を用いたり、追加の質問をして話題を広げたりしている様子を、全体で取り上げ価値付ける。
5分	④ インタビュー活動について振り返る。 ・相手のことをもっとよく知ったら、すごく仲良くなれた気がする。 ・言い方が分かって自信が付いた。 ・相手が誰でも英語で仲良くなれそう。 ・困った時は～すれば、上手く伝え合える。	・自己の変容に気付くことができる「Today's Goal」を確認しながら振り返るよう促す。 相手のことをよく知り仲良くなるために、その場で質問をしたり自分のことを伝えたりしている。 (14、オ) (発言・振り返りシート)
8分	⑤ インタビューを通して知り合ったことを、クラスの友達に紹介し合う。 ・相手の意外なことが知れた。 ・自分のことも知ってもらえて嬉しい。 ・次にこういう機会があれば、もっと工夫して聞いてみたい。	○次時に行う留学生のことを伝える活動に対して、より見通しがもてるように、より興味が沸いた内容を紹介するよう促す。 ・留学生からも子どものことを紹介してもらうことで、心の通ったやり取りができたことへの満足感が高まるようにする。

令和7年度 外国語科・外国語活動実践・研究計画

部 員	○山崎麻絵、山田幹、石田智之、山崎泰明、奥田瑞季、丹理人
-----	------------------------------

1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、外国語・外国語活動における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 3年「ALPHABETたんけん隊！」では、アルファベットの形と読み方を一致させる4種類の活動から選んで遊ぶ活動を設定した。様々な活動の場を設定したことにより、子どもが主体的にアルファベットの文字と関わる姿へとつながった。そして、その文字を用いてゲームや製作など体験的な活動を行うことによって、アルファベットに対する認識を新たに獲得したり、そこで気付いたことを友達に伝えたりするなど、自らが学びを発信しながら他者と積極的に関わる姿が見られた。

しかし、他者と外国語を通して関わることや、個人の活動の嗜好を越えて協働的に学ぶまでにはさらなる工夫や改善が必要である。子どもが自分で自由に遊んでいるように見えている裏で、教師がいかに目的・場面・状況を準備し、知らず知らずのうちに子どもが外国語に慣れ親しんでいるという状態を作り上げるかを考えることで、よりねらいに近づくことができる。さらに、日常にさり気なく活動があり、自由に手に取って遊べる環境作りも、慣れ親しみの一手法と考える。

- ② 4年「Let's go to the world!ーWhat do you want?ー」では、単元ごとに学習内容が積み重なっていく従来型の学習計画ではなく、複数の単元を行き来しながら既習事項を使いこなし、英語で活動できる世界にどっぷりと浸かって、英語の音が溢れる授業展開を目指した。

ある子どもが単語のスペルを当てるゲームをしながら、2つの物の名前が同じアルファベットをもつことに気付き、最終的にはそれが何かを聞くしかないということを教師に伝えた。また、物の売買をする活動において、店員としてタイムセールを行った際には、予定にはない表現に触れ、その場で考えながらやり取りを続ける必要感を生むことにつながった。子どもにとって「想定外」の出来事を教師が仕掛け、スムーズに活動を進められる状況と、うまく事が進まない状況をどちらも作り出すことで、活動の中に疑問や驚き、困る状況が生み出され、それによって新しいことを習得する必要性が生まれた。

しかしながら、既習表現を活用したり英語を駆使したりする活動には、場を捉えて助言したり考えさせたり、活用できている子どもを全体で共有し価値付けたりするなどの教師の働きかけが重要である。そのような場面を意図的に教師が設定する必要がある。

こうした成果と課題を踏まえ、外国語・外国語活動部は、自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 外国語科・外国語活動における 自律した学習者の姿

- | | | |
|---|---|---|
| <p>① コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、必要な語句や表現、方法を選択・決定し、言語材料を駆使して伝える姿</p> <p>② 外国語を用いて相互に理解し合う自然なやり取りの中で、相手に配慮しながら、伝えたいという強い思いをもって、活動上の困難を乗り越えるために既習表現を活用したり、新たな表現を使ったりしようとしながら、表現の幅を広げる姿</p> |  | <p>○伝えたいという強い思いを基に、子どもが使いたい表現や方法を選びながら、相手に伝わる実感を伴う体験を積み重ねる活動を工夫する。</p> <p>○表情豊かなやり取りなどのモデル提示や相手との関わりを通して、必要な表現の幅を広げていく学びのスタイルを構築する。</p> |
|---|---|---|

3 授業デザインの 具体的な取組

令和7年度「外国語科・外国語活動の資質・能力」表

※□は取り扱い学年、■は定着学年を示す。

内 容			学習指導要領との関連内容		3年	4年	5年	6年
			3・4年	5・6年				
外国語科・外国語活動の 学びに向かう力，人間性等	ア	外国語の音声や文字，基本的な表現に慣れ親しもうとする。	全般	全般	□	□	■	■
	イ	よりよいコミュニケーションの仕方を意識して，進んで話したり聞いたりしようとする。	全般	聞くこと 話すこと[やり取り]	□	□	■	■
	ウ	外国語の文字や基本的な文のしくみに関心をもち，進んで書こうとする。		書くこと			■	■
	エ	慣れ親しんだ音声と文字を関連させて，基本的な表現・語彙からその意味を推測しながら読もうとする。		読むこと			■	■
	オ	慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて，実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。	全般	全般	□	□	■	■

各領域の付けたい力 聞くこと	1	ゆっくりはっきりと話された際に，自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取る。	(1)ア		□	□	■	■
	2	ゆっくりはっきりと話されれば，自分のことや身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。		(1)ア			■	■
	3	ゆっくりはっきりと話された際に，身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かる。	(1)イ		□	□	■	■
	4	ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができる。		(1)イ			■	■
	5	文字の読み方が発音されるのを聞いた際に，どの文字であるかが分かる。	(1)ウ		□	□	■	■
	6	ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，短い話の概要を捉えることができる。		(1)ウ			■	■
各領域の付けたい力 読むこと	7	活字体で書かれた文字を識別し，その読み方を発音することができる。		(2)ア			■	■
	8	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。		(2)イ			■	■
各領域の付けたい力 話すこと[やり取り]	9	基本的な表現を用いて挨拶，感謝，簡単な指示をしたり，それらに応じたりする。	(2)ア		□	□	■	■
	10	基本的な表現を用いて指示，依頼をしたり，それらに応じたりすることができる。		(3)ア			■	■
	11	自分のことや身の回りの物について，動作を交えながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う。	(2)イ		□	□	■	■
	12	日常生活に関する身近で簡単な事柄について，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。		(3)イ			■	■
	13	サポートを受けて，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりする。	(2)ウ		□	□	■	■
	14	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができる。		(3)ウ			■	■
各領域の付けたい力 話すこと[発表]	15	身の回りの物について，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)ア		□	□	■	■
	16	日常生活に関する身近で簡単な事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		(4)ア			■	■
	17	自分のことについて，人前で実物などを見せながら，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)イ		□	□	■	■
	18	自分のことについて，伝えようとする内容を整理した上で，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		(4)イ			■	■
	19	日常生活に関する身近で簡単な事柄について，人前で実物などを見せながら，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話す。	(3)ウ		□	□	■	■
	20	身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。		(4)ウ			■	■
各領域の付けたい力 書くこと	21	大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。また，語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。		(5)ア			■	■
	22	自分のことや身近で簡単な事柄について，例文を参考に，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。		(5)イ			■	■

＜外国語科・外国語活動＞の学びを深める「見方・考え方」

- a よりよいコミュニケーションのために「言語」に着目し，外国語の音声，文字，単語，表現，語順などに慣れ親しむ。
- b よりよいコミュニケーションのために「文化理解」に着目し，外国語や相手，それらの背景にある文化を尊重し，相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- c よりよいコミュニケーションのために「コミュニケーション方略」に着目し，言語の働き・役割を理解するとともに，非言語も含めた伝え方・聞き方の工夫をしようとする。

＜各領域の学びを深める「見方・考え方」＞

- d 聞くこと 相手が伝えようとする話の内容に着目して，類推しながら大切な事柄が何かを考えて聞く。
- e 読むこと アルファベットの並びに着目して，音声で慣れ親しんだ基本表現や語句の意味が分かり，発音する。
- f 話すこと[やり取り] 話題の内容や相手の表情などに着目して，基本的な表現や自分の知る範囲の表現，伝え方の工夫を組み合わせを考えて話す。
- g 話すこと[発表] 話題の内容に着目して，伝えたいことを整理して基本的な表現や伝え方の工夫を組み合わせで話す。
- h 書くこと 例文や語順に着目して，音声で慣れ親しんだ基本表現や語句を組み合わせで書く。